

2014年1月31日 全3頁

2013年10-12月期 GDP 予測 ～前期比年率+2.8%を予測

内需の加速が成長を後押し

経済調査部
エコノミスト 久後 翔太郎

[要約]

- 2013年10-12月期のGDP一次速報(2014年2月17日公表予定)では、実質GDPが前期比+0.7%(前期比年率+2.8%)と、5四半期連続のプラス成長を予測する。2014年4月の消費税増税を前に、駆け込み需要により、個人消費や住宅投資が大幅に増加した。さらに、企業収益の改善を背景に設備投資も堅調に増加したとみられる。内需の加速を中心とした成長が期待できよう。
- また、輸出についても2四半期ぶりの増加に転じた見込みである。米国向け、EU向けが弱含むなか、アジア向けの輸出が持ち直しに転じたことが増加の主な要因となった。ただし、内需の拡大を受けて、輸入も大幅に増加した結果、外需(純輸出)寄与度は前期比▲0.5%ptと、2四半期連続のマイナス寄与となった見込み。
- 2014年1-3月期についても、内需を中心とした成長が継続することが見込まれる。2014年4月の消費税増税を前に、駆け込み需要が本格化することで、個人消費は増勢を強める見込みである。住宅投資は駆け込み需要の一巡により減速するとみているものの、設備投資は拡大が続く見込みである。輸出についても、緩やかな景気の回復が続くEU向けや米国向けが増加に寄与することで、成長を下支えするだろう。2014年1-3月期の成長率は、さらに加速する見込みである。

2013 年 10-12 月期：実質 GDP は前期比年率+2.8%を予測

2013 年 10-12 月期の GDP 一次速報(2014 年 2 月 17 日公表予定)では、実質 GDP が前期比+0.7% (前期比年率+2.8%)と、5 四半期連続のプラス成長を予測する。2014 年 4 月の消費税増税を前に、駆け込み需要により、個人消費や住宅投資が大幅に増加した。さらに、企業収益の改善を背景に設備投資も堅調に増加したとみられる。内需の加速を中心とした成長が期待できよう。

民需：個人消費、住宅投資で駆け込み需要が発現

個人消費は前期比+0.9%と 5 四半期連続の増加を予測する。2014 年 4 月の消費税増税を前に、自動車や家電などの耐久財で駆け込み需要が見られたこと、気温の低下を受けて冬物衣料品の販売が堅調に推移したことが個人消費を押し上げた。

住宅投資は前期比+4.5%と 7 四半期連続の増加を予測する。現行の消費税率の適用を受けるためには、2014 年 3 月までの引き渡し、あるいは 2013 年 9 月末までの契約が条件となる。そのため、工期の長い分譲マンション等を中心に、駆け込み的に住宅販売が増加した。GDP ベースの住宅投資は進捗ベースで計測されるため、9 月までに発注された住宅の建設が大幅に増加し、10-12 月期の住宅投資を押し上げた格好である。加えて、住宅ローン金利が低位で推移していることや、所得環境が持ち直していることも住宅投資の増加を後押しした。

設備投資は前期比+2.2%と 3 四半期連続の増加を予測する。企業収益の改善に伴い、製造業・非製造業ともに企業の設備投資意欲が増している。特に、小売業の新規出店に伴う建設投資が増加している。また、機械投資の先行指標である機械受注統計を見ても、製造業・非製造業ともに増加が続いており、10-12 月期の設備投資は堅調な結果となったとみている。

公需：公共投資は大幅な増加が継続

公共投資は前期比+4.7%と予測する。前期から伸び率は鈍化するものの、2012 年度補正予算の執行や被災地向けの公共事業の増加により、大幅な増加が続いている。政府消費は前期比+0.4%を予測する。

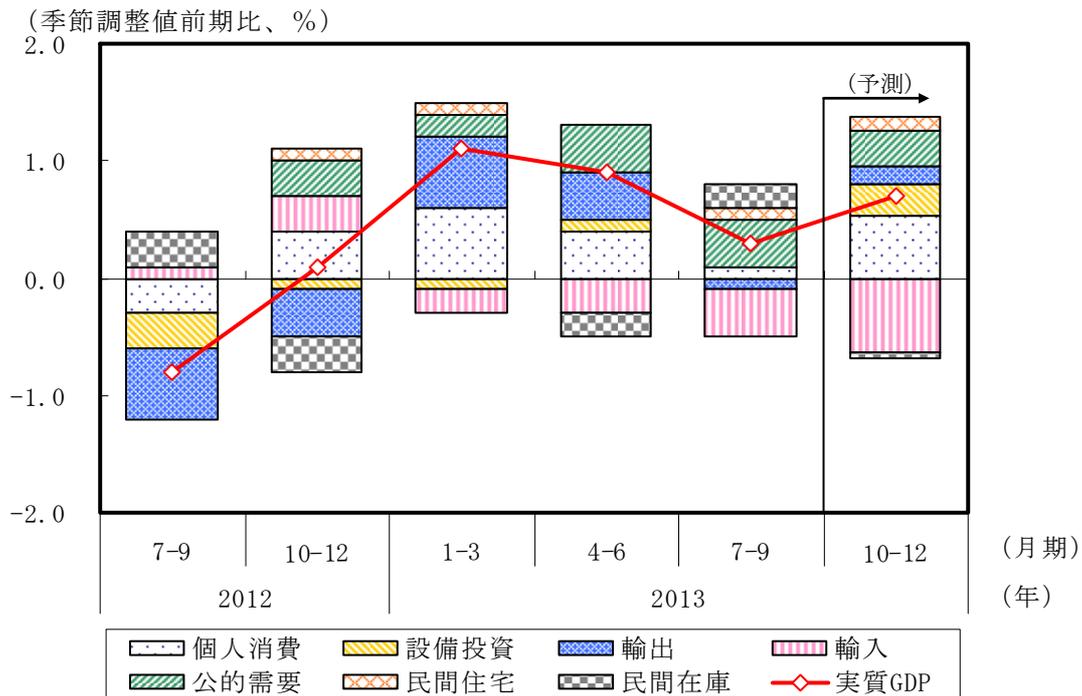
外需：輸入の増加を主因に 2 四半期連続のマイナス寄与を見込む

輸出は前期比+0.9%と 2 四半期ぶりの増加を見込む。米国向け、EU 向けが弱含むなか、アジア向けの輸出が持ち直しに転じたことが増加の主な要因となった。輸入は内需の拡大を受けて、前期比+4.4%と 4 四半期連続の増加を予測。この結果、外需(純輸出)寄与度は前期比▲0.5%pt と、2 四半期連続のマイナス寄与となった見込み。

2014年1-3月期：駆け込み需要が本格化することで、成長は加速する見込み

2014年1-3月期についても、内需を中心とした成長が継続することが見込まれる。2014年4月の消費税増税を前に、駆け込み需要が本格化することで、個人消費は増勢を強める見込みである。住宅投資は駆け込み需要の一巡により減速するとみているものの、設備投資は拡大が続く見込みである。輸出についても、緩やかな景気の回復が続くEU向けや米国向けが増加に寄与することで、成長を下支えするだろう。2014年1-3月期の成長率は、さらに加速する見込みである。

図表1：実質GDPの推移



(出所)内閣府統計より大和総研作成

図表2：2013年10-12月期GDPの予測表

		2012	2013			
		10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
実質国内総生産(GDP)	前期比%	0.1	1.1	0.9	0.3	0.7
	前期比年率%	0.6	4.5	3.6	1.1	2.8
民間最終消費支出	前期比%	0.6	1.0	0.7	0.2	0.9
	前期比%	3.1	2.2	0.3	2.6	4.5
民間企業設備	前期比%	▲ 0.6	▲ 1.0	0.9	0.0	2.2
民間在庫品増加	前期比寄与度%pt	▲ 0.3	0.0	▲ 0.2	0.2	▲ 0.1
政府最終消費支出	前期比%	0.7	0.7	0.6	0.2	0.4
公的固定資本形成	前期比%	2.9	1.1	6.3	6.5	4.7
財貨・サービスの輸出	前期比%	▲ 3.0	3.9	2.9	▲ 0.6	0.9
財貨・サービスの輸入	前期比%	▲ 1.7	1.0	1.7	2.2	4.4
内需寄与度	前期比寄与度%pt	0.3	0.7	0.7	0.7	1.2
外需寄与度	前期比寄与度%pt	▲ 0.1	0.4	0.1	▲ 0.5	▲ 0.5
名目GDP	前期比%	0.2	0.7	0.9	0.3	0.5
	前期比年率%	0.8	2.7	3.7	1.0	2.1
GDPデフレーター	前年比%	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 0.6

(注) 寄与度は四捨五入の関係上、実質GDP成長率と必ずしも一致しない。

(出所)内閣府統計より大和総研作成